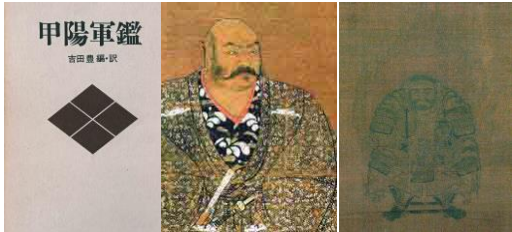


甲状腺外科草子 76

信玄の掟：城なき城

杉野 圭三

武田信玄 (1521-1573) の言行は甲陽軍鑑に述べられているが、信憑性への疑問符もある。信玄は父信虎を天文 10 年 (1541 年) 駿河に追放、家督を相続、信濃、諏訪などを平定。



甲陽軍鑑 武田信玄 信玄不動明王像 (武田信繁筆)

その後、村上義清との戦いが始まり、義清は天文 22 年 (1553 年)、上杉謙信の下へ逃れた。天文 22 年 (1553 年) 4 月、村上義清と上杉謙信は信濃出兵を開始し、同 24 年 (1555 年) 第一次川中島の戦いが始まり、永禄 4 年 (1561 年) の第四次川中島の戦いまで激闘が続いた。元龜 3 年 (1572 年)、信玄は遠江侵攻を開始、同 12 月 22 日、三方ヶ原の戦いで徳川家康を撃破。しかし、同 4 年 (1573 年) 4 月死去。甲陽軍鑑に記された信玄の言行から、その人柄や考え方が窺われる。

高名誉の次第の事 (大将の功名)

御大将の名誉は第一に人材の評価、第二に国の政治、第三に大合戦における勝利である。

信玄公御一代敵合の作法三ヶ条 (合戦の心得)

- ①敵の強い点、弱点を詳しく検討する、大河、山坂、財力、家中の武士の行状、行動など。
- ②合戦における勝利は 10 の内、六分か七分で充分である、八分の勝利は危険、九分、十分の勝利は味方が大敗を喫する。
- ③40 歳以前は勝つように、40 歳から先は負けぬように。

法度の元五つの事 (部下を統率する五原則)

- ①人材を評価し得意分野の任務を与える
- ②手柄を分類し、手柄の無い者も正確に把握

し依怙最眞なく扱う

③ふさわしい恩賞と言葉でねぎらう

④慈悲の心を忘れないこと

⑤怒ることがなければ油断するが、怒り方も考えて赦すことも必要である。

大身小身共に人を見そこのふ邪道七ツの事

①うっかり者を落ち着いていると見損なう

②軽率なものをすばしこいと見損なう

③愚図を沈着と見損なう

④そそっかしいと敏捷を見誤る

⑤無理解を慎重と見誤る

⑥無思慮の口たたきをさばけた人に見誤る

⑦信念の無い人間が知らないことに固執し剛情なのを、剛強武勇と見誤る

その他、この書には北条氏康、上杉謙信、織田信長の戦術の検討や大軍が小軍に敗れる危険因子の分析など多くの言行が残されている。

「一生懸命だと知恵が出る、中途半端だと愚痴が出る、いい加減だと言いつけが出る」

「人は城 人は石垣 人は堀 情けは味方 仇は敵なり」



武田神社 (躑躅ヶ崎館跡地) 武田 24 将図

強固な城だけでは国を防げないと見抜いた信玄の慧眼と統率力には脱帽である。信玄の愛した領土は美しい国であった。



富士五湖秋景

参考資料: 甲陽軍鑑 (吉田豊)、長野市立博物館、Wikipedia

(一甲状腺外科医の徒然なる随想)

2023 年 10 月 4 日